

算数

2026 年度 一般入試(A・B・C) のねらいと出題方針

出題方針

中学以降の数学を学んでいくための小学算数の理解と、それを適切に活用できる力を図るための問題を出題します。計画的に学習し、練習を積んできた受験生がきちんと得点できるように標準的な問題を多く出題するようにしています。また、各分野からかたよりなく出題できるように配慮しています。

具体的な作問の方針

基本問題は、計算・数の性質・比・図形・文章題などの分野からできるだけ偏りなく出題し、算数の基本的な知識の定着度および計算力をみます。応用問題は、必要な情報を見きわめながら筋道を立てて解答を導き出す力を問う問題を出題します。

A・B・C 入試はすべて同じ難易度を想定し、作問します。難易度や出題形式は、昨年度から変更ありません。

解答を進める上でのアドバイス

問題②～④では「求め方」の欄を設けています。たとえ正解までたどり着けなくても、どれだけ正解に近づいていたのか、受験生の力をみるためのものです。問題集などの模範解答のような、きれいな解答の書き方を求めているわけではありません。時間内に答えまで求めることができなくても、途中式や計算過程などを答案に書き残して下さい。また、計算式ではなく、図や言葉で表現してもかまいません。解答の方針が正しければ部分点を与えます。

採点基準と配点について

全体の配点の割合は、問題①が全体の半分程度です。

問題②からは解答欄の「求め方」で、図や途中の式などを見ながら、できるだけ受験生の力を見落とさないよう、部分点として加点しながら採点します。

2025 年度 一般入試（A・B・C）採点結果の分析

一般入試では、小問集合の配点が全体の半分程度になり、この部分の平均正答率は比較的高いです。大問「1」で失点してしまうと、他の受験生と差がつきやすくなってしまいます。大問「2」以降では、それぞれの（1）は比較的簡単な問題が多いので、仮に時間が足りなくなりそうでも、すべての問題に手をつけられるようにするとよいでしょう。求め方を書く問題では、仮に答えが間違っている場合でも、部分点を与えられることもあります。考えた過程を採点者に伝わるよう書き残す習慣をつけておきましょう。

A 入試

問題	出題内容	得点率
問題①	小問集合	(1) 89% (2) 85% (3) 86% (4) 81% (5) 95% (6) 70% (7) 86% (8) 24% (9) 48% 総合 74%
問題②	分配算	(1) 82% (2) 74% (3) 83%
問題③	規則性・周期	(1) 84% (2) 74% (3) 56%
問題④	速さとダイヤグラム	(1) ① 74% (1) ② 36% (2) 10%

B 入試

問題	出題内容	得点率
問題①	小問集合	(1) 90% (2) 85% (3) 91% (4) 91% (5) 83% (6) 30% (7) 54% (8) 53% (9) 73% 総合 72%
問題②	売買損益	(1) 72% (2) 45% (3) 31%
問題③	資料の整理	(1) 56% (2) 68% (3) 33%
問題④	水量の変化	(1) ア 78% (1) イ 41% (2) 16% (3) 7%

C 入試

問題	出題内容	得点率
問題①	小問集合	(1) 85% (2) 78% (3) 93% (4) 66% (5) 62% (6) 58% (7) 85% (8) 54% (9) 48% 総合 69%
問題②	食塩水	(1) 84% (2) 53%
問題③	平面図形の比	(1) 50% (2) 15% (3) 9%
問題④	規則性	(1) 94% (2) ア 98% (2) イ 96% (2) ウ 90% (2) エ 78% (2) オ 73% (2) カ 77% (3) 36%

2026 年度 算数 1 科入試のねらいと出題方針

出題方針

偏りないバランスのとれた基礎知識と計算力、そして問題文からの的確に必要な情報を読み取り解き進める力を問います。

具体的な作問の方針

20～25 問程度出題します。(計算問題を 3～4 題、他はすべて文章問題・図形問題です)
偏りなく様々な分野から出題します。解答は、答のみを書く形式が大半ですが、最後の 1～3 題程度、求め方を書く形式になります。

解答を進める上でのアドバイス

すべて答えのみ問う形式ですので、はやくかつ正確に答えにたどり着けるように練習しましょう。何を聞かれているのか、どの単位で答えるのかなどに、日頃から注意して取り組んで下さい。

採点基準と配点について

100 点満点で、ほぼ均等に配点する予定です。

2025 年度 算数 1 科入試採点結果の分析

1 科入試で算数を選択している受験生ということもあり、基本的な事柄については正答している人がほとんどです。間違えてしまうと大きく差がついてしまいます。合格ラインを考えると、正答率 60%以上の問題を落とさず、正答率 30～60%の問題のうち、半分以上は正答できることが目標といえます。

	出題内容	得点率(%)
(1)	計算(基本)	79
(2)	計算(逆算)	87
(3)	整数の性質	76
(4)	比	88
(5)	単位換算	76
(6)	単位換算	55
(7)	食塩水	82
(8)	差集め算	90
(9)	場合の数	42
(10)	売買損益	25
(11)	推理	90
(12)	仕事算	13
(13)	速さ	17
(14)	規則性	44
(15)	図形(角度)	67
(16)	図形の移動	63
(17)	図形	24
(18)	図形(面積)	38
(19) ①	流水算	69
(19) ②		46
総合		58

2026 年度 理数探究 算数分野のねらいと出題方針

出題方針

理数探究入試の算数分野で問いたい力は、初めて見る問題に柔軟に算数的な思考力を発揮できる力です。公式に入れて解決するのではなく、試行錯誤して効率の良い解き方や「こう考えると分かりやすい」という自分なりの発見をしてもらうことを狙いとしています。

対策

問題を解いたときに「なぜそう考えたのか」をきちんと言葉で誰かに説明出来るところまで深めてください。例えば「つるかめ算」を使って解いたとき、そこで終わりにするのではなく、つるかめ算はなぜ面積図を使って考えるのか、面積図のたてと横は何をどのような意図で表して求めているのか、まで説明できるようにしておくことが大切です。公式に当てはめて解答するだけで終わるような問題は出題しません。なぜそう考えたのかを常にもう一人の自分に説明するような練習を積み重ねてください。

解答を進める上でのアドバイス

答のみを解答する問題と「求め方」を記述する問題を出題する予定です。「求め方」は、どの様に考えたか採点者が読み取れるように書くことを意識して解答を作成してください。

2025 年度 理数探究入試 採点結果の分析

理数探究入試算数は、大問「2」の（4）の場合分けによる記述が書けているかが狙いでした。想定通り大問「2」の（4）が書けなかった、場合分けに気が付いていなかった答案は合格ラインに届いていません。条件を読み間違えている答案もありました。また、場合分けには気付いているものの、すべての場合が書かれていない答案も目立ちました。

大問「1」の約束演算は(1)と(2)から考え方を捉えて、(3)の解答に結び付けられる力を求めました。また、残念なことに“小さい方から”が読み取れておらず得点できなかった答案もありました。落ち着いて問題文を読み、条件を理解して取り組むことは入試では可否に関わるとも重要なことになります。

問題	出題内容	得点率
問題1	約束演算	(1) 98% (2) 98% (3) 55%
問題2	整数の性質(場合分け)	(2) ア 82% (1) イ 74% (1) ウ 83% (1) エ 83% (3) 91% (3) 71% (4) 35%